

経済動向調査のまとめ

令和2年度 第2四半期（7月～9月）

1. 兵庫県の景気動向

（令和2年10月28日発表 産業労働部政策労働局産業政策課により兵庫県の経済・雇用情勢を集約）

① 景況

		現状（良い－悪い） 構成比（％ポイント）				
区 分		R1.12月	R2.3月	R2.6月	R2.9月（現在）	R2.12月（予測）
全 産 業		▲ 3	▲ 9	▲32	▲31	▲31
	大企業	7	2	▲20	▲22	▲15
	中堅企業	▲ 5	▲ 9	▲28	▲21	▲23
	中小企業	▲ 7	▲15	▲42	▲39	▲45
うち製造業		▲15	▲17	▲37	▲37	▲38
うち非製造業		12	0	▲27	▲23	▲24

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

企業の業況判断は、足もと、先行きとも横ばいと依然として厳しい。

② 需要

項 目	30年度	R1年度	R2.5月	6月	7月	8月	9月
商業販売額：億円 （前年度比増減率％）	17,600 （▲ 0.8）	17,753 （+ 0.9）	1,437 （▲ 1.4）	1,546 （+ 5.4）	1,586 （+ 3.9）	1,627 （+6.0）	— （－）
乗用車販売台数：台 （前年度比増減率％）	176,883 （+ 1.1）	167,298 （▲ 5.4）	6,550 （▲49.8）	10,560 （▲29.8）	12,848 （▲14.0）	10,160 （▲18.8）	15,370 （▲18.7）
新設住宅着工戸数：戸 （前年度比増減率％）	31,774 （▲ 5.0）	31,567 （▲ 0.7）	2,286 （+21.5）	2,717 （▲ 6.7）	2,556 （▲ 7.2）	2,249 （▲6.3）	— （－）
神戸港輸出額：億円 （前年度比増減率％）	58,596 （+ 2.9）	53,652 （▲ 8.4）	3,275 （▲23.0）	3,716 （▲22.2）	4,112 （▲15.7）	3,697 （▲ 12.9）	3,981 （▲ 10.4）

出所）商業動態統計（経済産業省）、新車登録速報（日本自動車販売協会連合会兵庫県支部）、軽自動車新車届出状況（兵庫県軽自動車協会）、住宅着工統計（国土交通省）、神戸港貿易概況（神戸税関）（商業動態統計調査の前年度比増減率は全店ベース）

項 目	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度（計画）
設備投資額 前年度比増減率：％	+24.4	▲ 8.1	+0.8	▲1.2	+12.4

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

個人消費は、持ち直しの動きが続いている。

輸出は、下げ止まっている。

設備投資は、増加計画にあるものの、下方修正の動きも見られる。

③ 生産

項 目	30 年度	R1 年度	R2.4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
鉱工業生産指数:H27=100 (前月比増減率%)	103.9 (+ 0.7)	103.6 (▲ 0.4)	89.6 (▲ 10.3)	85.1 (▲ 5.0)	87.7 (+ 3.1)	90.0 (+ 2.6)	90.1 (+ 0.1)

(月次は季節調整値、年度は原指数。年度増減率は前年度比較) (出所) 兵庫県鉱工業指数 (県統計課)

生産は、持ち直しの動きが続いている。

④ 雇用

項 目	30 年度	R1 年度	R2.4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
有効求人倍率(季節調整値):倍	1.45	1.38	1.13	1.05	1.01	0.98	0.93
新規求人数(原数値):人 (前年度比増減率%)	36,004 (+ 3.8)	33,517 (▲ 6.9)	23,868 (▲32.3)	23,315 (▲32.3)	27,953 (▲13.0)	25,631 (▲28.4)	24,397 (▲29.2)
現金給与総額:円 (前年度比増減率%)	304,601 (+ 2.2)	312,795 (+ 2.7)	262,368 (▲ 4.0)	260,083 (▲ 2.8)	411,940 (▲ 0.8)	341,807 (▲ 9.1)	250,231 (▲ 6.0)

(有効求人倍率の年度値は原数値、現金給与総額の年度値は年平均) (出所) 一般職業紹介状況(厚生労働省兵庫労働局)、毎月勤労統計調査地方調査(県統計課)

有効求人倍率は、低下している。賃金は、弱い動きとなっている。

⑤ 金融

項 目	30 年度	R1 年度	R2.5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
企業倒産件数:件 (前年度比増減率%)	427 (▲ 8.6)	471 (10.3)	10 (▲70.6)	40 (0.0)	42 (+13.5)	45 (+15.4)	28 (▲37.1)
企業倒産負債総額:億円 (前年度比増減率%)	578 (▲ 8.6)	498 (▲13.9)	20 (▲48.0)	33 (▲46.8)	20 (▲52.2)	60 (+73.0)	136 (+375.4)

(出所) 兵庫県企業倒産状況 (東京商工リサーチ神戸支店)

倒産件数は、前年を下回った。

～県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント～

管内の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状態にあるが、持ち直しつつある。個人消費は、徐々に持ち直している。設備投資は、高水準で推移しているものの、引き続き慎重化の動きもみられている。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、増加している。輸出は、下げ止まっている。

こうした中、生産は、下げ止まっており、一部に持ち直しの動きもみられている。一方、労働需給は、有効求人倍率が1倍を下回るなど、新型コロナウイルス感染症の影響により、緩んでいる。雇用者所得は、減少している。消費者物価(除く生鮮食品)は、前年を上回って推移している。

(令和2年10月12日 日本銀行神戸支店「管内金融経済概況」)

2. 地域における景気動向

但陽信用金庫 景気動向調査レポートより（2020年7～9月期）

（回答企業 439社）（回答率 99.32%）

概況(全業種)	(439社)			(179社)			(152社)			(86社)		
	2020年4月 ～6月期	2020年7月 ～9月期 (今回)	2020年10月 ～12月期 (予想)	2020年4月 ～6月期	2020年7月 ～9月期 (今回)	2020年10月 ～12月期 (予想)	2020年4月 ～6月期	2020年7月 ～9月期 (今回)	2020年10月 ～12月期 (予想)	2020年4月 ～6月期	2020年7月 ～9月期 (今回)	2020年10月 ～12月期 (予想)
業況D.I.	▲ 49.31	▲ 46.01	▲ 44.95	▲ 37.29	▲ 39.66	▲ 42.46	▲ 58.00	▲ 51.32	▲ 46.36	▲ 57.65	▲ 48.84	▲ 48.81
売上額D.I.	▲ 53.92	▲ 32.12	▲ 28.60	▲ 45.20	▲ 30.17	▲ 29.61	▲ 58.67	▲ 40.13	▲ 33.11	▲ 62.35	▲ 27.91	▲ 32.56
収益D.I.	▲ 53.46	▲ 33.49	▲ 27.92	▲ 43.50	▲ 34.64	▲ 31.28	▲ 58.67	▲ 35.53	▲ 30.46	▲ 63.53	▲ 31.40	▲ 27.91
資金繰りD.I.	▲ 19.40	▲ 4.78	▲ 4.58	▲ 15.82	▲ 6.15	▲ 8.38	▲ 17.45	▲ 2.63	▲ 0.66	▲ 28.24	▲ 10.47	▲ 10.47
前期比残業時間D.I.	▲ 30.65	▲ 30.30	▲ 26.88	▲ 23.16	▲ 25.14	▲ 24.58	▲ 37.33	▲ 39.47	▲ 29.61	▲ 30.59	▲ 25.58	▲ 26.74
人手過不足D.I.	▲ 7.39	▲ 6.64	▲ 5.26	▲ 7.91	▲ 5.62	▲ 4.49	▲ 6.71	▲ 11.92	▲ 9.27	▲ 1.18	5.81	5.81
前年 同期比	売上額	▲ 57.14	▲ 52.62	-	▲ 47.46	▲ 41.34	-	▲ 60.67	▲ 66.45	-	▲ 69.41	▲ 55.81
	収益	▲ 55.53	▲ 53.76	-	▲ 44.07	▲ 41.90	-	▲ 60.00	▲ 65.79	-	▲ 68.24	▲ 60.47

調査の概況

【2020年7月～9月期実績】：全地域では若干の改善。

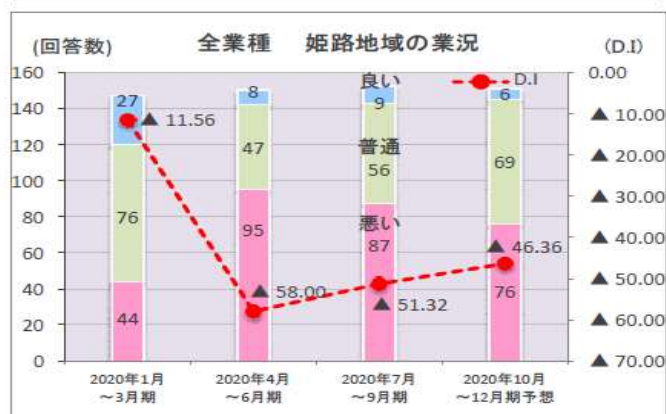
当期の全地域・全業種における業況D.I.は▲46.01となり、前期比 3.3 ポイント上昇しましたが、依然としてマイナス圏にあります。東播磨地域は前期比 2.37 ポイント低下の▲39.66、姫路地域は 6.68 ポイント上昇の▲51.32、朝来・神崎地域は 8.81 ポイント上昇の▲48.84 となるなど、東播磨地域以外では改善が見られますが、大きな変動はありません。人手過不足D.I.は▲6.64と 0.75 ポイント上昇していますが、姫路地域では 5.21 ポイント低下する一方で、朝来・神崎地域では 6.99 ポイント上昇し、プラスに転じるなど地域差が生じています。業種別業況では建設業以外で若干改善されてきていますが、まだまだコロナの影響が続いているとみられます。

【2020年10月～12月期予想】：全地域では若干の上昇を予想するが、東播磨地域では低下。

来期の全地域・全業種における予想業況D.I.は▲44.95で、今期を 1.06 ポイント上回る予想です。姫路地域では今期比 4.96 ポイント上昇するものの、▲46.36 ポイントのマイナス、朝来・神崎地域でも 0.03 ポイント微増の▲48.81 ですが、東播磨地域では、2.8 ポイント低下の▲42.46 となる予想です。また、人手過不足D.I.は▲5.26と 1.38 ポイント上昇する予想となり、業種別では全業種が横ばいを見込んでいます。

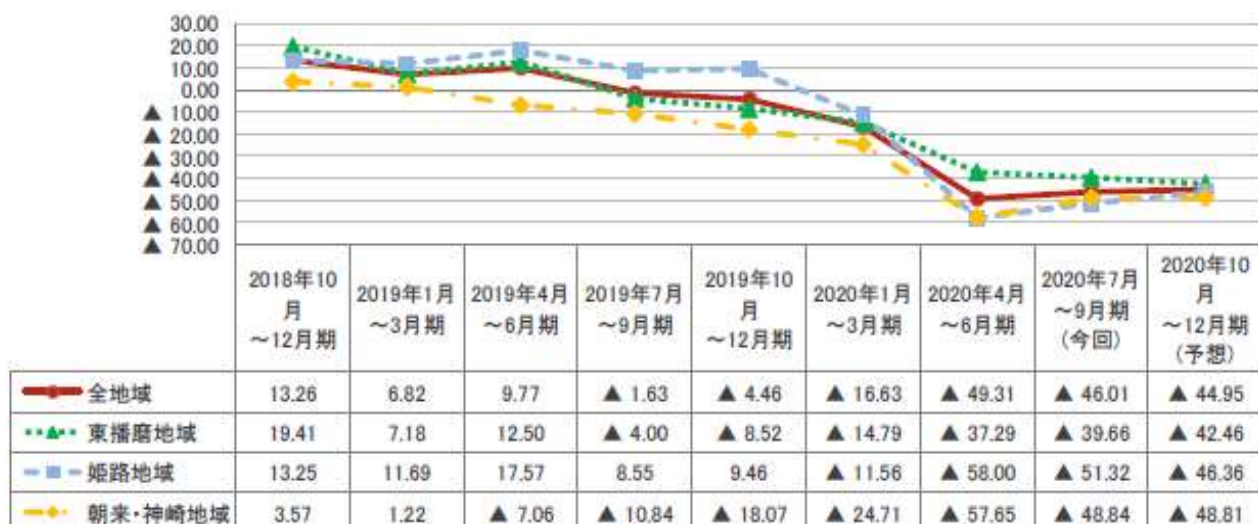
調査時では新型コロナウイルスの感染状況は減少傾向にありますが、経済活動を再開させると再び感染拡大につながる恐れがあります。巻末の特別調査「新型コロナウイルスの感染拡大を受けた中小企業の対応について」においても、コロナ前の水準に回復する時期を「2021年以降」や「わからない」、「戻ることはない」との回答が78.82%を占めており、今後もコロナの影響が続く予想となっています。

地域別業況



地域別業況の推移

全業種 地域別業況判断 (D.I)



業種別業況

